

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL.025-234-6781~6783

## 新潟市食育・花育センターで第3回県民公開講座を開催



(関連記事 2~3 ページ)

### 目次

- ◆ 食品の安全性確保について学ぶ県民公開講座の開催 .....(2)
- ◆ にいがた和牛肥育名人を認定 .....(4)
- ◆ にいがた和牛七夕フェアを開催 .....(4)
- ◆ 全国畜産縦断いきいきネットワーク大会に参加 ..(5)
- ◆ 実行力・実現力のある酪農家を目指して  
「Team Milk Factory」の結成、そして活動 .....(6)
- ◆ 声のコーナー .....(7)  
「牛飼いという仕事」  
肉用牛経営：胎内市 小野 巧  
「目指すもの」  
養豚経営：長岡市 丸山 喜也
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより .....(8)  
柏崎市：鎌田養鶏株式会社
- ◆ 畜産物市況 .....(8)
- ◆ 編集後記 .....(8)

# 食品の安全性確保について学ぶ県民公開講座の開催

## 県民公開講座の概要

10月2日（水）、新潟市食育・花育センターにおいて、県民に食品の安全性確保について正しい知識と正確な情報を提供し、とりわけ畜産物についての知識向上と理解増進を図ることを目的として、県民公開講座「食品の安全性確保の仕組み～聞いて安心！食べて納得！新潟の畜産物～」を当協会の主催、新潟県畜産振興協議会の後援で開催しました。

県民公開講座は平成23年度から3年連続で開催しており、今年も幅広い年代や多様な職種の68名の方々から参加していただきました。

## 講演

内閣府食品安全委員会事務局 情報・勧告広報課の間淵徹リスクコミュニケーション専門官から「食品安全委員会の役割について」と題し、食品安全委員会が実施している食品の安全を守る仕組みについて講演いただき、特にハザードとリスク及びリスク評価の重要性を強調されていました。

### ◇ ハザードとは？

健康に悪影響をもたらす可能性のある食品中の物質・要因または食品の状態

### ◇ リスクとは？

食品中にハザードが存在する結果、生じる健康への悪影響が起こる可能性とその程度



(講演する間淵専門官)

### ◇ リスク評価

次の4ステップで実施

#### ① ハザードの同定

要因は化学的？ 生物学的？ 物理的？



#### ② ハザードの特徴付け

どのような影響？ 確率は？



#### ③ 暴露評価（摂取量推定）

どのくらい摂取？ 経路は？



#### ④ リスク判定

総合的にリスクはあるか？

### ◇ リスクと付き合うには？

- 食品を含め、どんなものにもリスクがある
- リスクのとらえ方は人によって差がある
- リスクを知り、妥当な判断をするためには努力が必要になる



具体的に消費者ができることは……

- 科学的知識を身につける努力
- メディアの情報の正確性を見分ける努力  
⇒ 事実と意見、編集の有無、キャスターのイメージ等に左右されない
- 情報を批判的に読み取る努力  
⇒ あらゆる情報を一度批判的に考える

## 話題提供

新潟県農林水産部畜産課の仲山美樹子副参事から「安全・安心な畜産物を食卓に！新潟県の取組み」と題し、HACCP方式の導入による「畜産安心ブランド生産農場」の認定拡大や県産牛肉等の放射性物質検査の継続実施による安全・安心な畜産物の提供、生産現場における家畜伝染病の防疫対策強化等について話題提供をいただきました。

- ◇ 畜産振興の基本的な考え方
  - ・ 畜産経営は、配合飼料価格の高止まり等の影響による経営悪化、伝染病発生リスクの増大など厳しい状況
  - ・ 県産畜産物のブランド確立や一層のコスト低減と生産性向上による所得の増加、安全・安心な県産飼料の確保及び畜産物の供給拡大、家畜伝染病の防疫体制の強化について重点的に推進
- ◇ 畜産物の安全・安心に係る県の主な取組み
  - ① 食中毒菌の検査  
腸管出血性大腸菌、サルモネラ
  - ② 死亡牛のBSE検査  
年間約700頭検査、県内でBSE発生なし
  - ③ 畜産安心ブランド生産農場の認定  
県内の全農場のうち約4割が認定農場
  - ④ 家畜伝染病防疫合同訓練  
講演・実地訓練、昨年度は約200名が参加
  - ⑤ 放射性物質検査  
原乳、牛肉、豚肉合わせて2,850検体を検査  
(平成24年度)



(話題提供する仲山副参事)

## 畜産物の展示・試食

会場には「畜産安心ブランド生産農場」で生産された畜産物の展示コーナーを設置し、パネルやチラシ等でブランド商品についてPRしたほか、妻有畜産(株)のポークジャーキー、神田酪農のやすだ愛情牛乳の試食・試飲をしながら、妻有畜産グループの澤口晋氏及び神田酪農の神田豊広氏から生産・流通段階の安全性確保の努力等について説明していただきました。



(妻有畜産コーナー)



(神田酪農コーナー)

## アンケート調査結果

参加者を対象としたアンケート調査では、この県民公開講座について、92%の参加者から「参考になる」と回答があり、県民に正しい知識と正確な情報を提供できたと感じております。また、「若い生産者の頑張りが好印象」、「生産者の声をもっと聞きたい」等、生産者とのコミュニケーションを図りたい旨の要望が多かったことから、今後の県民公開講座の企画の参考にさせていただきます。

## にいがた和牛肥育名人を認定

にいがた和牛推進協議会では、にいがた和牛の品質の高位平準化により、生産頭数の増加と販売拡大を図るため、協議会会員から優れた生産技術を有する肥育経営者を推薦していただき、次の認定基準を満たしている経営者を「にいがた和牛肥育名人」として認定しています。

### <認定基準>

- 経営内容が優れていると認められ、和牛肥育技術が以下のいずれかに該当する者
  - ・直近2年間に出荷した枝肉格付4等級以上率が概ね70%以上である者
  - ・直近5年間の全国、新潟県規模の共励会等で優秀賞以上の入賞歴のある者
- 経営生産管理技術を県内肥育農家に広く公開でき、にいがた和牛推進協議会が実施する販売促進活動等に参画できる者

この度、平成22年に認定した肥育名人について、3年間の認定期間が経過したことから、8月8日に選考委員会を開催し、下記のとおり9名の肥育名人を決定しました。

なお、今回決定された肥育名人の認定期間は平成25年4月1日から平成28年3月31日までの3年間となりますので、肥育技術研修会でのアドバイザー等として名人の技術伝達が図られることを願っています。

### にいがた和牛肥育名人

氏名	住所
山賀 治彦	村上市小須戸
菅原 健一	村上市大関
漆間 平	村上市大関
遠山 幸一	村上市金屋
時田 正	村上市中野
田口 正一	長岡市中之島中条
関 克史	長岡市山古志東竹沢
和田 一男	小千谷市上片貝
高橋 勝美	十日町市筋平

## にいがた和牛七夕フェアを開催

にいがた和牛推進協議会の主催により「にいがた和牛七夕フェア」を東京都の表参道・新潟館ネスパスで7月6日（土）～7日（日）の2日間、開催しました。

このイベントは、首都圏における「にいがた和牛」の認知度向上と販売促進を目的に実施しているもので、昨年7月、11月の開催に引き続き、本年度は7月に1回の開催となりました。

2日間とも、最高気温が34～35℃と猛暑となったため、表参道の通行者に主婦層はほとんど見られませんでした。それでも新潟館ネスパスへの入場者数は2日間で5,869人と多くの方々からご来場頂きました。

七夕フェアでは、にいがた和牛精肉のパック販売、にいがた和牛焼肉（800人分）の試食提供、新潟米菓詰合せセットや新潟産こしひかり等が当たる抽選会、にいがた和牛の紹介などのイベントを実施しました。

購入者に対するアンケート実施結果から、「にいがた和牛」の認知度は38%（昨年7月：31%）と昨年より若干向上しているものの依然として低いことがわかりました。

しかしながら、「にいがた和牛」を試食した人の評価は非常に高く、今回のイベントにより認知度の向上につながったと考えられるので、今後も継続して認知度向上に向けた対策を講じていきたいと考えています。



（表参道・新潟館ネスパスでの「にいがた和牛」販売）

## 全国畜産縦断いきいきネットワーク大会に参加

全国の畜産に携わる女性で構成されている「全国畜産縦断いきいきネットワーク」【事務局：（公社）中央畜産会、島田玲子会長（中魚沼郡津南町・養豚経営）】の平成25年度大会が8月27日に東京都中野区の中野サンプラザで開催されました。

今年度は「国際化時代に向け、負けるな畜産！輝けウーマンパワー！」をスローガンに環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）に関する講演や、寸劇、畜産女性の地域参画等についての講話及びパネルディスカッション等が行われ、会員及び関係団体役員等、約100名が全国から参加しました。

### ○講演「TPPと畜産経営について」

（公社）中央畜産会の伊佐地誠参与が、現在十分な開示のないまま交渉が行われているTPP問題に対し、関税、財政負担、畜産農家の合理化努力という三位一体で日本の畜産のバランスを取ることが大切だという意見があることや、TPPによる経済効果は期待できず経済格差が広がるのではないかという懸念を述べ、また消費者に対する食料安全保障が日本の畜産の発展につながるのではないかという考えを示しました。

結論的にTPPに対し極端な悲観と楽観は避けるべきであるという講演内容でした。これに対し、島田会長がTPPについてできる限りの情報を提供して欲しいと要請しました。

### ○寸劇「カラスだって反対だ！」

TPPが日常生活や畜産経営に及ぼす影響を会員の方々がカラスに扮して熱演しました。



（熱演する会員の方々）

### ○講話「女性経営参画者への提言」

湘南家畜保健衛生所の稲垣靖子所長が仕事をしていくにあたり職場の上司、同僚、子供の保育園の先生や親同士との関わり合いがセイフティネットになったとの経験を披露し、また3世代で活躍する神奈川県内の女性畜産農家の事例を紹介して畜産に携わる女性に「続ける・伝える・つなげる」ことが大切であるというメッセージを述べました。

また、（株）ユーユーワールドの大森真紀国際部長が物流・貿易を主力事業としている観点から、生産者をバックアップし、県産の農作物を県外及び海外に発信している取り組みについて紹介しました。

### ○パネルディスカッション「私は考える！国際化時代における女性の経営参画」

講話に続き、参加者から女性の経営参画にまつわる話が紹介されました。農業委員を務めている参加者からは、「自らが農業委員会に参画することで質問意見を沢山述べ、2時間以上にわたり有意義な会議を行うことができた。」との紹介があり、6次産業化に取り組んでいる参加者からは、「6次産業化は労賃がかかるが、店を持つことにより客から様々な意見を聞くことができる。6次産業化に取り組むために現場の力をつけておくことが大切である。」という意見がありました。

### ○2分間スピーチ

参加者がステージ上で自由に発言をする「2分間スピーチ」では、地元の食材を使用した加工食品のPRや、畜産に参画したきっかけ、畜産の世界で生きてきた経歴や経験などが披露されました。

最後に大会宣言が行われた後、島田会長と参加者がステージ上で日本の畜産を守りきることを誓い、閉会しました。



（声高らかに日本の畜産を守りきることを誓う島田会長〔中央〕）

## 実行力・実現力のある酪農家を目指して ～「Team Milk Factory」の結成、そして活動～

「Team Milk Factory」代表  
齋藤 栄毅（さいとうえいたか）

「自分たちはこのままでいいのか？」こんな言葉から「Team Milk Factory」は始まりました。酪農情勢が厳しくなる中で「現状のままで大丈夫なのか？」「他にもっといい方法はないのか？」酪農に対する未来への不安、さらには自分たちの後に続く人達への責任などを日々考えるようになったのが設立のきっかけでした。

そんな時にふと「自分達が新潟でできる理想の酪農とは何なのか？」「どんな酪農が社会から求められているのか？」ということが頭に浮かび、それらを追求することが最初の問いの答えになると思い、この活動をスタートさせました。そして、酪農に関わる多くの人を集め、皆で考え、皆で協力しながら、各々が理想とする酪農を実現するためにできることを少しずつ始めることにしました。

新潟では多種多様なスタイルの酪農家が混在しています。それを無理に一つの方向にまとめようとするのではなく、各々が自分の目指す酪農を達成すべく、上手にこの会を活用してもらうようにしています。ですからメンバーに出席を強制することはなく、自由に出入りできるようなスタンスをとっています。

「Team Milk Factory」で最も大切にしていることは主体性です。自分で見て、自分で聞いて、自分で考えることで目標を実現させる為の実行力をつけるようにしています。そのため学習方法は主にワークショップ形式で行うようにしています。活動は毎月一回行い、その内容は大きく2つに分けています。



(勉強会の開催)

第一に、カウセンスupの勉強会と経営力upの勉強会を行い、それらを通して人間力upにつなげて行こうと考えています。牛を上手に飼うためには知識や技術、経験やカウセンスが必要です。メンバーには、ここで学んだことを技術にまで発展させてそれを繰り返すことで牛に対するセンスを向上させるように働きかけています。その他にも経営の基本となる経営学をかじってみたり、もうけの仕組みを考えてみたり、上手なコミュニケーションの方法を学んでみたりと活動内容は多岐にわたっています。そして、それらをこなすことで酪農家としてまた一人の人間としての魅力が生まれることを「ねらい」としています。

第二に、牛乳の価値や酪農の価値を消費者の方々にも認知してもらうための交流活動をしています。主な活動はイベントやお祭りへの参加、また、食育授業の一環として小学校などに子牛を連れて行き、そこで乳牛の話や酪農の話、実際に子牛と触れ合うことで命のぬくもりを感じてもらい、牛乳の正しい知識とありがたみを理解してもらうようにしています。この活動は私たち酪農家にとっても、自分の仕事の価値に気づく為に必要なことだと考えています。子供達の笑顔は何にもかえ難い宝物で、毎日の仕事の励みになります。今後もこのような活動は続けていこうと思っています。

この先どんな困難が立ちは大かっても最終的には自分の力で乗り越えなくてはなりません。これからは僕たち若者の時代です。10年後、20年後にも「酪農をやっていてよかった。酪農が自分の天職だ。」と言えるように今後も目標に向けて一生懸命に取り組んでいきます。そして、その姿を見た次世代の若者から「私も酪農を仕事にしてみたい。」という声を聞くことができれば最高の喜びです。



(交流活動)



肉用牛経営

胎内市下江端

小野 巧



養豚経営

長岡市西谷

丸山 喜也



## 『牛飼いと仕事』

私は胎内市（旧黒川村）で和牛肥育をしています。飼養規模は約150頭で、以前より数は減りましたが繁殖牛もいます。私の家は私が子供の頃から専業農家であり、牛飼いと稲作をやってきました。今は父、母、姉、たまに祖母と共に農業をしています。小さいときから、家の手伝いイコール牛小屋へ行くということだったので、牛飼いと仕事は割とすんなり始めることができると思っていたのですが、まだまだ修行が足りないのを痛感させられる今日この頃です。

稲作もやっているのでも、牛に与えるワラは米をとったあとの切りワラ、減反にあてられたホールクroppサイレージで確保しています。また、自作する分では足りないため、周りの人のワラをもらい、そのお返しとして自家堆肥を散布するという、持ちつ持たれつの関係で品質の良いワラを手に入れることができている。草も牧草地を作り、年に3回程刈取り、必要量を確保できています。そして近年は飼料用トウモロコシを作っており、サイレージとして牛に食べさせています。

牛飼いと仕事は春、夏、秋、冬と一年間をものすごく実感する仕事です。その中で、牛に自信のある飼料を食べさせ、ストレスを与えないように気を配りながら、常に精進していくことが大事だと思いました。

私はまだまだ学ぶ事ばかりの青二才ですが、人生と仕事の師である父、縁の下の力持ちである母、共に頑張っている姉、一家の大黒柱の祖母、そしてそれを支えてくれる様々な周りの方々がいるのがすごく幸せだと思っています。少しでも早く精進し、最高においしい牛肉をたくさん出して、恩返ししていきたいです。

目指せ！！日本一の牛肉！！



(牛舎内でくつろぐ肥育牛)

## 『目指すもの』

私は養豚の道に足を踏み入れ、まだ2年目の若輩者ですが、目指すものがあります。それは「小さく大きく」です。私自身、身長が170cmと小さく、大学までの野球人生では苦勞する事が多くありました。しかし、小さいからと諦めるのではなく、練習を重ね、様々なトレーニングにも妥協しなかった結果、どんな相手にも力負けしないようになりました。まさに「小さく大きく」です。

養豚の世界も一緒だと思います。小規模でも基本を守り、やることをしっかりやればどんな苦境も生きていける。そんな思いでこの世界に入りましたが、現状は想像以上に厳しく、飼料価格の高騰・相場の低迷・異常気象、挙げればきりがありません。

でも負けてはいられません！私には目標があります。5年以内に母豚60頭規模で年間出荷頭数1,450頭をクリアする事です。私の農場の施設は昭和40年代に建設され、床も豚房も老朽化しています。子豚舎と呼べるような畜舎もなく、飼育されている豚達には決して良い環境とは言えません。毎年少しずつ改善はしているものの、事故率の高さや肥育日数の長さは指標に達していないので、現状のできることをしっかりと遂行したいと思います。

直近の課題は疾病対策です。以前から、私の農場では衛生管理が十分とは言えず、ワクチンや抗生物質の使用も最小限としていました。その結果、不十分な衛生管理から離乳後の高い事故率、発育不良などが成績を大きく落とす要因となりました。

そんな中、地元のJAの方々や家畜保健衛生所、普及センター、畜産協会の皆様が一体となり、私の技術力向上を現在進行形でサポートしていただいております。その結果、少しずつではありますが、畜舎の状況は改善に向かっていきます。このようにサポートして下さる皆様の期待に応えられるよう日々精進してまいります。また、「声のコーナー」を見ていただいている皆様にも、今後お会いする機会もあるかと思いますが、その際は色々とお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

# 畜産安心ブランド生産農場だより

柏崎市：鎌田養鶏 株式会社

私たち鎌田養鶏株は、創業以来、採卵養鶏一筋で努力を続けてきましたが、今日を迎えるまでに様々な岐路に立たされ変革を迫られてきました。

飼料価格の高騰や卵価の低迷等による厳しい経営環境への対応として、飼養規模を従来の約半数の45千羽に縮小し、卸に頼らない経営を目指し直売を始めました。この取組で私たちが気づかされたことは、わざわざ直売所まで卵を買いに来てくださるお客様たちが何を求めているかということ、おいしくて新鮮は当たり前ですが、何よりも生産者の顔が見える安心感だということでした。

私たちは、そうしたお客様に対して、より一層の安全・安心をお届けするため、平成17年、畜産協会からクリーンエッグ生産農場の認定を受け、また、平成23年には、鶏の習性に配慮した快適な環境での卵生産を目的として、日本初となるアニマルウエルフェア対応のエンリッチドケージを導入しました。

平成24年には、6次産業化への取り組みとして、菓子製造施設を新設し、シュークリームやプリン等の販売を始めて大変好評を得ています。

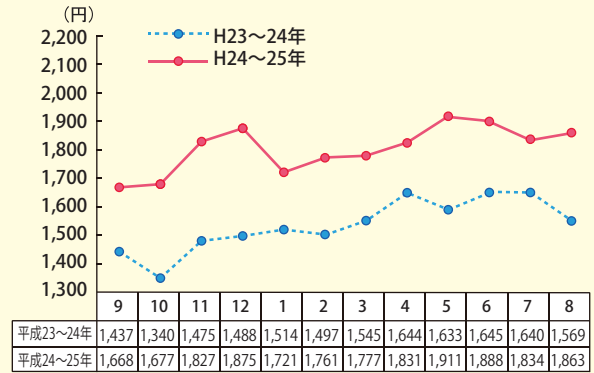
さらに、今年度からは、家畜保健衛生所及び畜産協会の指導・支援を受けて農林水産省の認証基準に基づく農場HACCPの構築に取り組んでいます。

今後も、安全・安心で高品質な卵の生産に努め、お客様からのより高いニーズに応えられる企業でありたいと考えています。

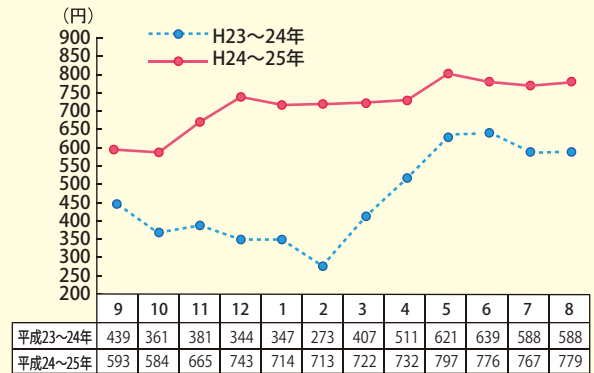


# 畜産物市況

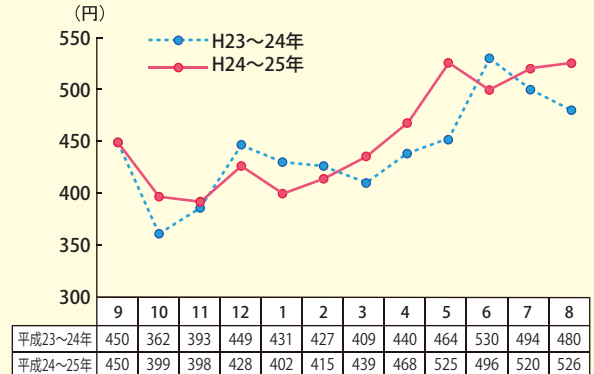
## 牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



## 牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



## 豚枝肉相場・上(東京市場)



## 編集後記

厳しい暑さの夏がようやく過ぎ、さわやかな季節が到来しました。ことしの夏も猛暑あり、記録的豪雨ありで生産者の皆様も暑熱対策や畜舎の管理などに大変ご苦勞をされたことと思います。皆様のご苦勞が実を結び充実した実りの秋になるものと期待しております。

本号では、10月2日に新潟市の食育・花育センターで開催した県民公開講座を特集しました。当協会が公益社団法人に移行したことを契機に平成23年度から毎年度開催している公開講座も、3回目の開催となりました。これからも、関係機関や団体と連携しながら時宜に合ったテーマをとりあげて、多くの皆様から興味を持って参加して頂けるよう努めてまいりたいと考えております。引き続き関係者の皆様の御協力を、よろしくお願い致します。

(古田島 記)